

つばめ会会報

“Slope”

第19号

目次

幹事長の言葉	岡部健志(21期)
会長の言葉	浅野昭(12期)
前部長の言葉	松井弘毅(26期)
新部長の言葉	比嘉友紀(27期)
前コーチの言葉	坪居大介(24期)
春インカレ2005報告	坪居大介(24期)
愛知インカレの感想	村上諒一(25期)
世界選手権運営報告	浅野昭(12期)
近況報告	川俣智(20期)
近況報告	小川千隼(22期)
ML・ホームページ・掲示板について	
新幹事自己紹介	北村伸介(25期)
編集後記	

幹事長の言葉

岡部健志 21 期

あつという間に冬が過ぎ去り外を歩けば桜を見かけるようになりました。オリエンテーリングをするのにも心地よい季節になってきました。

さて、3月10-12日に愛知インカレが開催され、私も最終日に参加してきました。スタート前の各大学の応援、中継地点通過のアナウンスに一喜一憂する学生達、そしてアンカーがゴールする瞬間…。インカレの参加人数は少なくなっているようですが、参加者の熱気は昔と変わらないと感じました。OLTは今回10位と残念な結果でしたが、また来年に向けてがんばって欲しいと思います。

また、同じ3月に野球の世界一を決めるWBCが開催されました。私も例にもれず熱くなつてしまい、準決勝、決勝はテレビの前で必死に日本チームを応援していました。審判の誤審、韓国に3連敗の危機、2次リーグでまさかの1勝2敗…。様々なことがありましたが、プロが集まり本当の世界一を決める大会が開催されたのは非常に素晴らしいことで、だからこそ日本中があれだけ熱狂したのでしょう。

大会中、さかんに「チームワーク」という言葉が使われました。「アメリカのようにただすごい選手を集めただけでは勝てない」「キューバは何ヶ月も合宿を行いチームワークを高めてきた」など。実際日本チームでも他の選手のエラーを挽回しようとして好プレーが生まれたり、チームワークが好影響を与えていたと思います。チームワークはチームとして本来の力を発揮するのに必要なのでしょう。

ただ、これをオリエンテーリングに当てはめようとするのでしょうか。例えばインカレであれば、3人のタイムで競うのですから3人速い選手を揃えた大学が優勝するはずで、そこにメンバーやサークルとしてのチームワークは影響しないように思えます。(例え速い選手を作るのに必要だとしても、当日になってしまえば関係ない。)しかし、WBCを見ていると個人競技のオリエンテーリングであってもチームワークの力が必要なのではないかと考えてしまいます。

他の強豪校と比べてOLTは自由な雰囲気、オリエンテーリングへの関わり方も部員一人一人違いますから、チームワークというものを作るのも難しい面があると思います。ただ、今の雰囲気を保ちながらチームワークを育むことができれば、その時、OLTも入賞常連校に…。というのは言いすぎでしょうか。

6月にはサッカーの世界カップがあります。また日本中が熱狂する日がやってきそうです。

会長の言葉

12期 浅野 昭

先日、春のインカレ(って、年1度のインカレの時代しか知らないおじさんにはとても違和感ある表現なのですが)を見てきました。もう言い古された表現かも知れませんが、昔に比べてずいぶん小さな会場になり、運営スタイルの違いにびっくりすることも少なくありません。競技地図がほぼ事前にわかっているなんて、昔には考えられませんね。

つばめ会の多くみなさんはすでに会社や家庭で、忙しい毎日を送っていると思います。わたし自身、いくつかの大会運営のお手伝いをしていますが、自らが走る機会を作ることはあまりできていませんし、ついついおっくうになっています。(体重は自己最高を更新し続けています)

が、若いみなさんの走っている姿を見て、特に選手権クラスではOLTは10位という結果でしたが、そのがんばりは見ているわたしにも伝わってきました。そして、あの頃とまではいなくても、ちょっとは走ってみようかなと思い始めています。

また、つばめ会のみなさんとOLの大会会場(もしくはつばめ会合宿)で会って、お話したいものです。ぜひ、みなさんもたまにはオリエンテーリングしてみませんか。

前部長の言葉

26期 松井 弘毅

つばめ会の皆様、こんにちは。2005年度部長の松井弘毅です。「部長」という肩書きが外れて気を抜いていたところ、「前部長」という肩書きで原稿依頼を受けることになるうとは、油断はできないというところでしょうか。

昨年度のOLTを見てきた感想を述べさせていただきます。昨年度はロングセレ、ミドルセレ共に大量通過、またミドル本番ではA-finalに4名もの部員が進出しました。さらに、インカレミドルのリレメンバーを選出する部内セレもかなりの混戦となりました。これは2年生を中心とした下級生の実力がついてきたこと、部全体の実力が底上げされてきたことを示すのではないのでしょうか？

しかしながら、昨年度の目標に対する姿勢や普段の活動への取り組みなどにおいて、いろいろと反省すべき点もありました。とはいえ、僕はその全てを皆様に話しつくせるほどに饒舌ではなく、その全てをここに書きつくせるほどに気力に満ちているわけでもなく、ましてやそれ以前にその全てをここで列挙する必要すらないと思われるので、部をまとめるために僕が大切だと感じたことを少しだけ述べます。

活動にあまり参加しない人に対して文句を言うだけでは大抵の場合、どうにもなりません。参加しない人は見捨てるのではなく、なるべく迎え入れましょう。上級生は、オリエンの速い人だけでなく、オリエンの遅い人もその人なりの実力を発揮できるように、指導したり見守ってあげるべきです。

昨年一年間、合宿の運営のご協力やインカレでのご支援など、つばめ会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。今年度からは部長の比嘉を中心とした27期が部を導いていってください。つばめ会の皆様、今後のご指導、ご声援のほど宜しくお願いいたします。

新部長の言葉

27期 比嘉 友紀

つばめ会の皆様、こんにちは。この度、東京工業大学オリエンテering部部長となりました比嘉友紀と申します。新しく部長に就任いたしましたので、つばめ会の皆様へのご挨拶をさせていただきます。

今年のインカレでの我々オリエンテering部の成績はというと、ミドルディスタンス部門において A-final 進出者が4人で、最高順位が8位という成績でした。また、リレー部門においては10位という成績でした。今回個人戦であるミドルにおいてはセレに17人も通過しており、セレならびに A-final 通過者がさらに増加するよう頑張っていく所存です。一方、団体戦であるリレーにおいては前回の7位から成績はさがってしまいました。リレーの厳しさが改めて分かるレースであったと思います。

今年の目標として「インカレリレー部門の選手権クラスにおいて3位入賞」「部員全員で走行距離 12,000km を達成する」を掲げました。前者の目標は厳しい目標ではありますが、今年はこれを掲げて頑張っていこうと思います。後者の目標は部員全員での走行距離を足していくことで、少しでも目標に向けて部員が走ってくれると思います。この目標で部員が一丸となってくれることと思います。

先輩方のご指導や経験談などを我々現役部員にさせていただけると嬉しく思います。技術合宿や練習会などへご参加、ご協力頂けたら我々も光栄です。

今年もまた新歓の時期がやってきております。現在、元気な一年生を迎えるべく新歓活動を頑張っております。新歓活動で何かと忙しい日々ですが、12,000kmの集計も始まっており、忙しい合間をぬってトレーニングをしていきます。運営学年としてまだまだ頼りない部分はございますが、オリエンテering部のため一生懸命頑張っております。また、オリエンテering部へのご声援をこれまでと変わらず頂けると幸いです。

前コーチの言葉

24期 坪居 大介

去年1年間コーチ職を務めました坪居です。

まず1年間の結果を整理すると、次のようになります。

- ・ ロングセレ 5人通過(小山・柴本・北崎・岡・高瀬)
- ・ インカレロングで 10位・27位・32位・53位・57位
- ・ ミドルセレ 18人通過(繰上げ・学校枠含む)
- ・ インカレミドル予選4人通過(小山・村上巧・柴本・高瀬)
- ・ A-finalで 8位・21位・24位・30位
- ・ リレー10位(羽賀 - 村上諒一 - 小山)

個人戦についてはいずれも過去最高かそれに近い成績を挙げることができましたが、肝心のリレーではいまひとつの結果に終わってしまいました。

今年を振り返ると、コーチとしては、「変化」の年であったといえるでしょう。今まで常識とされていたことを打ち破り、様々な工夫を試みてみました。合宿メニュー・テクミ・トレーニング論などなど、内容も多岐に渡ります。これらのほとんど(全て?)は同期の前田君発案のもので、彼が現役の4年間で、様々なところから仕入れた知識をもとに考えてきたことです。そして、その結果として、個人戦では非常に良い結果を得ることができました。本当に前田君には感謝しています。

こう書くと僕が何もしていないように思うかもしれませんが、自分は現役生との意思疎通を主に担当してきました。ただ、自分としては、例年良くあることではあるのですが後半でだれてしまい、またたまり続ける仕事に負けてしまったということもあり、いま一つ満足感が得られずに終わってしまいました。ここが反省すべきところでしょうか。

また、今年はコーチ役が2人(僕と前田君)だけということもあり、合宿運営では新しいことを取り入れようとしたこともあり、毎度毎度運営が極度の綱渡り状態になってしまいました。これでもし誰もOBの方が来てくれなかったら、確実に合宿の運営が不可能になっていたことでしょう。合宿に来てくださったOBの皆様には感謝の念でいっぱいです。

さて、もう既に今年度の新しいコーチ体制が決まったそうです。今年度の運営方針はどうなるのでしょうか?もちろん僕には分かりませんが、どうなるにせよ、きっと彼らもまた悩み事を抱えるときがあるのでしょう。それは合宿運営であったり、ノウハウ不足だったりするのですが、その時には彼らを助けてあげてほしい、と思います。もちろん僕もそうするつもりです。

改めましてこの1年間、様々なOBの方にお世話になりました。本当にどうもありがとうございました。

春インカレ 2005 報告

24期 坪居 大介

2006年3月10-12日に愛知県岡崎市(旧額田町)・新城市(旧作手村)にて行われました春インカレ2005の報告です。

・ 開会式

今年は、東工大の村上(4年)が開会式の選手宣誓の役を引き当てた。Orientearing.comにその時の様子が載っている。

http://www.orientearing.com/event_report/2006/0313/index.htmlを参照されたい。

また、前年度の前田(24期)に続き、今年度は小山(2年)がシード選手に選出されており、シード選手紹介を行った。

・ ミドル競技

去年から、春インカレはクラシック+リレーではなく、ミドル+リレーとなった。

ミドル競技では午前に予選が行われる。ここで170人40人と、一気に狭き門となる。今年はコースが比較的難しかったようでミドル予選は波乱の展開になり、インカレロング優勝の高橋(図書館情報大学)やインカレロング入賞の小林がまさかの不通過となった。そんな中、東工大の選手たちは自分の実力を出し切った人が多かったようで、小山、村上巧(2年)、高瀬(3年)、柴本(1年)が通過。観戦していた某氏をして「夢のようだ」と言わしめた4人通過を果たした。もちろんこの人数は過去最多。特に、小山はレーントップ通過となり、午後の決勝の好走が期待された。

その後、午後は決勝が行われた。午前のおおりに食ったのだろうか、こちらもかなりの荒れ模様。早いスタートの(つまりは予選下位通過の)走者たちのタイムが一定せず、観戦者たちが優勝タイムの見積もりすらできない状況。そんな中で東工大の村上、柴本、高瀬はそれぞれ自分なりのレースをしたようで、それぞれ最終的に21位、24位、30位となった。タイムはそれぞれ33分53秒、35分12秒、38分20秒。なお、柴本は新人特別表彰。

そろそろ予選上位者のタイムが出るかという頃、27分前後のタイムが出始める。結局大西(京都3)の出した26分50秒が優勝タイムとなった。小山は後半の1分半のミスが響き、29分08秒で8位であった。来年度、再来年度の入賞が期待される。

ミドル A-final 成績

1	大西康平	0:26:50	京都 3
2	茂木堯彦	0:26:53	東京 2
3	今井直樹	0:27:07	早稲田 4
4	藤沼崇	0:27:20	新潟 3
5	櫻木伸也	0:28:04	静岡 4
6	平岡雅芸	0:28:16	金沢 4
8	小山温史	0:29:08	東京工業 2
21	村上巧	0:33:53	東京工業 2
24	柴本浩児	0:35:12	東京工業 1
30	高瀬悠太	0:38:20	東京工業 3

・ リレー競技

昨年からリレーは3人制の競技となった。

東工大のメンバーは羽賀 - 村上諒一 - 小山というオーダー。

事前予想では京都と東北の2強、それ以外では東大、千葉、新潟、金沢、東工などなどと混戦状態というものだった。

レース展開は、1走の羽賀がミスをいくつも重ねてしまい、トップ+18分、ライバル校に対しても+10分近くのビハインドを背負う苦しい展開。

2走の村上は堅実なレースをするも上との差は縮まらず、この時点でもまだ17位。

3走のエース小山で一気に7人抜き去るも入賞までは届かず、結局10位でフィニッシュとなった。トップとの差は26分、6位との差は11分。

なお、併設リレーの最高位は10位(北崎 - 柴本 - 村上巧)であった。

このリレーでは、男女ともに優勝争いが非常にドラマチックだった。

まず男子では、京都と東北が前評判どおりの強さを見せ、なんと3走第2中間(ゴールまで3分程度)でほぼ同時、しかもランナーは大西と後藤でどちらもエースという、非常にしびれる展開。結局この戦いは、東北のエース後藤のビジュアル後のわずかなミスで決まった。優勝した京都と東北の差はわずか14秒。

女子では、2走終了段階で日本女子が他大学を10分ちぎっており、日本女子の圧勝かと思われた。が、3走の橋本(ミドル5位)が大きくミスをしてしまい、なんと東京農工の志度とラスポゴールで争い、東京農工がトップゴールする。しかし、東京農工は2走が地図取り違いで失格となっており、優勝は日本女子となった。なお、その1分後に奈良女子がゴールしており、男子のみならず女子も混戦となった。

リレー男子成績

1	京都大学	高田 智実	津國 真敏	大西 康平	2:39:30
2	東北大学	高橋 元気	永井 亮	後藤 大輔	2:39:44
3	東京大学	佐藤 啓史	茂木 堯彦	山崎 貴彦	2:48:08
4	静岡大学	西山 洋生	青木 大輔	櫻木 伸也	2:51:06
5	名古屋大学	小林 知彦	吉岡 慶祐	樽見 典明	2:53:34
6	北海道大学	池 陽平	真名垣 友樹	山口 拓也	2:54:02
10	東京工業大学	羽賀 岳尋	村上 諒一	小山 温史	3:05:49

詳しい情報は、ic2005 ホームページ (<http://www.orienteering.com/%7Eic2005/>) を参照。

なお、来年度のインカレは

ロング:9/18(クラブカップリレーと2days)、駒ヶ根にて

ミドル:3/3-4、矢板にて

の予定である。また、関東ロングセレが 6/18 に群馬県渋川市「りんごの里」にて行われる予定である。

愛知インカレの感想

25期 村上諒一

何を書こうか迷っているうちに締め切りを一週間過ぎてしまった。とりあえず、最後のインカレに向けてトレーニングを始めたのは10月だったと思います。最後のロングセレに落ちて院試、研究、暑さなどに負けて夏はほとんどトレーニングしませんでした。でもこれではいけないと思って頑張り始めたのがこの頃だったと思います。それからどんなに研究室が忙しくても走る量は落とさませんでした。そして気づくとリレーメンバーになってインカレを迎えていました。

初日。開会式で選手宣誓という大役をやることになっていました。うちの大学の面子にかけて中途半端なことは出来ないと思い頑張っってやりきりました。(何をやったかは orienteering.com を見てください)

二日目。個人戦は全く自分のレースが出来なくて翌日に不安を残す内容でした。OLT 全体としては A-final に過去最高の人数が通りました。

三日目。前日の結果に対して団体戦の日の朝は良い精神状態で迎えられていたと思います。準備をして一走のスタートを見送りました。アップをして待つもうちの大学がなかなか帰ってこない。結果、トップから18分遅れで帰ってきました。一走の時点でかなり厳しい状況になっていました。2走の自分の仕事はどんな状況でもレースを作るということは分かっていたので自分のオリエンをすることだけに集中してスタートしました。レース中はいつもよりも体が重く感じつつもなんとか頑張っって走りました。最後のビジュアルで声援を受けてもうひと頑張り、2走にタッチしてゴール。完璧なレースとはいかなかったけど2走としての最低限の仕事は出来たと思います。ただ、ゴールした瞬間はもっと出来たという気持ちでかなり悔しかったです。そして3走は10位でゴール。

今年のインカレは春インカレとしては3年ぶりの愛知でした。そう、3年前の愛知インカレは東工大 OLT が最後に入賞したインカレでした。気づけばその場に立ち会った現役は我々だけとなってしまいました。自分が卒論研究で忙しい中でもトレーニング量を落とさずリレーセレに対して気持ちを切らさないで取り組めたのはあのインカレが大きかったと思います。そして、リレーの代表に決まってからはあの時のインカレを思い浮かべるようにしました。けれどもあの時のような結果は残せませんでした。

3人リレーで1人が飛ぶと挽回は難しいというのが今回の結果の理由の全てだと思います。

そうは言いつつも一年間で最も大事なレースで力を出せなかったのはチームとしての「若さ」が出た結果なのかなあとと思います。「若さ」は、はまれば良い結果が出せるけど失敗もする。今年1年間で今持っているものに「巧さ」を合わせることが出来れば入賞やそれ以上の結果が出せるのではないかと思います。

最後に応援してくれたOBの皆さんにお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

世界選手権運営報告

12期 浅野 昭

もう終わってから1年も経っているのに、
いまさら運営報告なんてないとも思いますが、
逆に1年経った今だからこそ、言えることもありそうなので、
わたしの印象に強く残った出来事について書いてみます。

チーム対応

世界選手権と言えども、要はオリエンテーリング大会です。
しかも参加人数は300人弱、クラスは基本的に男女1つずつですから、
その意味では簡単な大会運営です。
(いや、チェックは膨大な数を重ねているのですから、
ぜんぜん楽ではありませんが)

ですが、普通の大会ならば、あまり気にもとめない部分が
世界選手権では重要になってくるのです。
たとえば、チーム対応というパートがあります。
これは各国の選手団と大会運営側のやり取りを
スムーズにする役割です。(普通に言えば通訳のお仕事)
たぶん、他のスポーツ競技ならば、各国選手団の役員または旅行代理店の人の
仕事なのでしょうが、
OLという競技のアットホームな部分がそうさせるのか、
はたまた日本人の人の良さがそうさせるのかわかりませんが、
大会役員にそれらの仕事が舞い込むことになるわけです。

わたしは、広報パートの仕事で各国選手団にメールを送ったこともあり、
なぜかイギリスチームの選手から、交通案内の問い合わせのメールが
来たことがありました。
英語なんてまったく苦手なのに、成田空港から愛知までの
道案内をなんとか書いて、返事しました。あれで通じたのかなあ。

空港まで迎えに行ったり、レンタカー手続きを代行したり
なんでこんなことまでやらなければならないのだ、と思ったこともありますが
すべては「情けは人のためならず」。

日本人が向こうの大会に出たときに、きっとお返ししてくれるでしょう。

草刈り

オリエンテーリングはありのままの自然をそのままに利用するスポーツであることが原則ですが、競技・演出の都合上、それを少々、人為的に動かすときがあります。とはいえ、地形を動かすには、ちょっと無理。ですけど、植生状態や特徴物を変化させることは可能です。

ふつうの大会では、地図調査を行ない、それに合わせてコースを練り上げていくことになります。しかし、世界選手権では、その常識が打ち破られることになります。

今回、スプリント競技が行なわれた愛知県豊田市の昭和の森公園では、たった15分の競技のために、大規模な草刈りが行なわれました。

草刈り機とチェーンソーが連日10数台以上出動し、すでに競技の都合に合わせて描かれている地図を見ながら、ヤブを刈っていく作業が気温35°を超える炎天下の下で続けられました。(大会4日前までやっていた)

ちなみに決勝で使用されたコントロール位置のほとんどが当初はC~Dヤブでした。これをスプリント競技にふさわしいレベルまで走れる状態に仕立て上げたのです。

刈っても刈っても、真夏の日の下で伸びてくる雑草。この世界選手権の中でも思い出に残る、そして2度とやりたくない作業の一つです。

最終日

前々からわかっていたことですが、1週間まるまる続く大会なんて、誰もが未経験。後半になると疲れの色を隠せない人もどんどん増えてきます。しかし、重要な仕事はまだまだたくさん残っています。

クラブカップリレーも終わり、いよいよ最終日の
国別対抗リレーを翌日に控えた晩の 23 時過ぎにわたしが見たものは、
いまだ1枚も袋詰めされていない地図を 1000 枚。
そして、翌朝は3時起床、4時作業開始で
リレー会場の設営があることが決まっている。。。
この時こそ本当に逃げ出したいくなりましたが、その場でがんばっていらっしゃるのは
ふだんは M60A、W60A が主戦場であるベテランの方々。
わたしみたいな若造が逃げるわけにはいかない、
とがんばることができました。

この日に限らず、この世界選手権はベテランの方々のがんばりに
支えられたような気がします。

最後に

ある日、併設大会に出場したイギリス人のおっちゃん（たしか M60A あたりに出場）
が話しかけてきました。
わたしの英語力では細かいニュアンスはほとんどわかりませんでした、
そのおっちゃんが、一生懸命、その日のレース内容をしゃべっているのを
聞いていて、とても楽しく感じました。
まさに、オリエンテーリングの楽しさには国境はないんだな、
と確信した瞬間でした。

というわけで、今、わたしの部屋に飾ってある
ミドル3連覇を達成した、フランスの
シェリー・ジョルジョー選手の直筆サイン入り
地図を眺めながら、この文章を書いてみました。

近況報告

川俣智(20 期)

みなさま大変ご無沙汰しております。学生時代はそれこそバカみたいにオリエンテーリングをしていましたが、卒業をしてからはかなり遠ざかっています。それでも年に1回くらいはやってはいますが、健康のためにやっているという感じです。

仕事もまあそれなりに忙しくやっていますが、最近、ダーツにハマってます。今年1月くらいに友人からマイダーツを譲ってもらい、月に何度かダーツバーとかでの的に向かって投げます。なかなか難しく、せいぜい2mくらいしか離れていないのに、なかなか狙ったところにいきません。

また、セガの関連会社が「ダーツライブ」という事業をやっていて、マイダーツライブカードを持って、そのカードが使える機種でダーツをすると、自分のプレイが記録として残り、過去の点数とかを比較することができたりして、厭きさせません。大学時代から年に数回はダーツをやったことがありましたが、最近ハマってしまったのは、これの影響が大きいです。

周りにやっている人がいなかったりするとなかなか敷居が高いかもしれないですが、機会があればぜひともお勧めしたいです。

近況報告

22期 小川 千隼

つばめ会、ならびに OLT のみなさま、大変ご無沙汰しております。まだ部室にテレビが 5 つあった頃、部室の主と呼ばれていた 22 期の小川と申します。すでに完全に忘れられているかと思いますが、大学を卒業後北陸の大学院に行ったこともあり、一切、つばめ会の活動に関わっていないので当然でしょう。OLT の OB として唯一したことといえば、22 期の OLT 杯で密かに計センをやっていたくらいのものでした。つばめ会名簿に名前があるかどうかも疑わしい身ですが、同期が忙しいようなのでこの度この会報に執筆することになりました。

さて、私は現在、日本信号という、鉄道・交通信号、駅務機器(改札機、自動精算機、列車情報表示器など)を製造している会社に勤めています。スポーツというオリエンテーリングくらい無名な会社なのですがそれなりに大きな会社です。本社は東京ですが、埼玉の久喜事業所で研究開発の仕事をしています。具体的なことは新事業の開発の仕事になるので書けませんが、誰もやっていないことを考える仕事なので試行錯誤の日々を過ごしております。現在会社の寮に住んでいるのですが、その寮がつばめ会の某有名人 N 氏の実家から徒歩 5 分の位置にあり、何らかの運命を感じております。車通勤をしていて、会社まで 30 分強で着くので通勤には恵まれている方だと思います。しかし、この寮がなかなかすごいところで、築 40 年くらい経っていて OLT の部室があったサークル棟並みのぼろさなのですが、隣の部屋とベニヤ板一枚でつながっていて音が丸聞こえなところまで同じで、なんだか部室にいた頃のことを思い出します。さらに出るご飯がなかなか衝撃な味なので、なるべく早く出たいと思っています。

最近の趣味といえばスカパーには行って野球見まくりなのもありますが、やはりドライブでしょうか。北陸に行ったことの最大の理由は運転ができるようになったことですから。未だに愛車は石川ナンバーのマニュアルデミオですが、同期の飲み会だけのために石川～東京間を寝ないで往復したり、OLT 杯の運営のために水戸まで片道 13 時間かけていたり、実家の青森や学会のあった四国などにも一般道乗り倒した車なのでなかなか愛着があります。GW もまだ決めていませんがどこかに行く予定です。もう少し余裕ができればロードスターあたりに買い換えたいですね。その前に引っ越しですが。

だいたい近況報告としてはこんな感じでしょうか。今後また会う機会があればその時はよろしく願います。で、会費ってどうやって払うんでしたっけ。

ML・ホームページ・掲示板について

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつばめ会ML(メーリングリスト)を立ち上げています。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連絡、近況報告など、お気軽に使ってください。メールアドレスはtsubame][egroups.co.jp です。ご不明な点がございましたら、管理者の井ノ川智史(tsubame-owner][egroups.co.jp)までご連絡ください。このML に関するホームページ(登録メンバーのみ)にて過去ログなどを閲覧することもできます。

<http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にもぜひアクセスしてください。

つばめ会のホームページが稼動中です。ぜひご覧ください。

つばめ会のホームページ(管理人:坪居大介(24期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/4476/>

東工大OLT のホームページ(管理人:糸永幸平(26期))

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/3247/>

つばめ会の雑談用掲示板を作成しました。(管理人:坪居大介(24期))

<http://x.z-z.jp/?tsubame> です。パスワードは先日MLのほうに流しましたが、つばめ会MLに最近加入した、該当メールを紛失した等の理由でパスワードが分からない方は僕(t_daisk][yahoo.co.jp)までご連絡ください。

スパム対策として、@][となっています。ご了承ください。

新たに事務局長になった北村伸介君に自己紹介を書いてもらいました。

名前:北村伸介

役職:事務局長

期:25

学科、専攻:経営システム工学科、経営工学専攻

過去の役職:大会係(2003年度)、部長(2004年度)

過去の実績:筑波大大会 M20A 3位、全日本リレーM20A 2位

つばめ会のみなさんへ:鷹觜さん(24期)の後を継いで今年度の事務局長となりました。よろしく申し上げます。

編集後記

僕にとっては初めてのSlope発行になります。まずは原稿を書してくれた皆様どうもありがとうございました。

また、原稿が4月半ばにはそろったはずなのに発行がなぜかこんなに遅くなったのは僕の怠慢以外の何者でもありません。ごめんなさい。

僕は現役のときの役職は広報ではなかったのですが、こういった編集の仕事はこれが初めてになります。

意外とcopy&pasteでも面倒くさいものですね。今回は別にレイアウトにはまったく凝っていないのに、だいぶ時間がかかってしまいました。

あとは、フォントの問題でしょうか。

今回は全てそろえています、原稿としてファイルをもったときは当然ですがフォントがばらばらで、それを直すのが結構面倒くさかったです。まあ、きっと悪いのはWordなんだろう。ビル イツなんだろう。

そんなSlopeですが、きっとどこかに僕や原稿作成者のミスがあると思います。

その時は影でこっそり笑っていてもいいですけど、できれば掲示板なりメールなりで指摘をよろしくお願いします。というか、できればしてください…。

もう5月なわけですが、東工大OLTでは新しいコーチも決まり、今は新歓真っ盛りの時期のはずです。今年東工大OLTに入るのは29期ですね。いったいどんな新生が入ってくるのでしょうか？ 修士2年の僕でもやはり気になってしまいます。そして、東工大OLTはこれからどこへ向かうのでしょうか？ いちOBとして、彼らを見守って行きたいな、と思ったりしています。個人的には、今年はつばめ会でインカレロング観戦+クラブカップのツアーを企画してみたいなと思ってます。賛同者求む。

…まあ、本当は研究と就職活動をしなきゃいけないんですけどね。

東工大オリエンテーリング部OB/OG 会「つばめ会」会報

Slope 19号

発行責任者 岡部 健志

編集責任者 坪居 大介 (t_daisk)[yahoo.co.jp]][@に直してください。

発行年月日:2006/05/07